



Q : 風疹(三日はしか)と麻疹(はしか)は違う病気ですか？



風疹は三日ばしかとも呼ばれています。症状は軽い風邪症状で、全身に赤い発疹がみられ、リンパ節が腫れたり、関節痛、関節炎なになります。熱は37度台くらいです。感染しても症状が出ない人もいます。



風疹は一度かかると免疫ができるのですか？



風疹は一度かかると、大部分の人は生涯風疹にかかることはありません。以前は1～9歳の幼児期と小学校低学年のころにかかることが多かったのですが、近年は成人男性が多くなっています。



風疹はどんな感染の仕方をするのですか？



患者さんの唾液の飛沫で他の人に感染していきます。特に、発疹症状がでる2～3日前から発疹がでた後の5日くらいまでの患者さんの飛沫は感染力が強いです。



大人と子供では症状が違いますか？



子供では比較的軽いです。大人は子供と比べて発熱・発疹期間が長く、関節痛がひどくなる傾向があります。一週間以上仕事を休まなければならない場合もあります。



妊娠初期に風疹にかかると赤ちゃんにどんな影響が出るのですか？



妊娠初期に感染すると胎児に悪影響を及ぼします。生まれた赤ちゃんは難聴、心疾患、白内障になることもあります。また、精神や身体の発達の遅れる障害をもって生まれる可能性があります。この障害を先天性風疹症候群といいます。



先天性風疹症候群が起こる時期は妊娠初期に多いのですか？



風疹にかかった妊娠時期により違いがあります。妊娠12週までに風疹にかかると先天性風疹症候群がおこる可能性が高いことがデータでわかっています。



風疹の予防接種の目的は？



風疹の予防接種をするのは、妊婦が妊娠初期に風疹にかかると赤ちゃんが先天性風疹症候群の障害にならないようにするためです。またそのような心配をしながら妊娠を続けることのないようにするためです。



予防接種をする効果は？



多くの方が予防接種をうけると、風疹から守られるだけでなく、妊婦や他の人に風疹をうつすことが少なくなります。



妊娠する可能性がある成人女性が風疹ワクチンを受ける場合にどんなことに注意したらよいでしょうか？



妊娠出産年齢の女性が風疹ワクチンを接種する場合には、妊娠していない時期(生理中またはその直後がより確実)にワクチン接種を行います。その後2ヶ月間の避妊が必要です。



成人男性でも予防接種を行う必要がありますか？



平成23年度の感染症流行予測調査によると、30代～50代前半の男性の5人に1人は風疹の免疫を持っていませんでした。20代の男性は10人に1人は風疹の免疫を持っていませんでした。なるべく早く予防接種をしましょう。特に妊娠中の奥さんがいる場合にご主人が風疹にかかり風疹をうつすと、その赤ちゃんが先天性風疹症候群となって生まれる可能性があります。自分と家族、そして周りの人々を風疹とその合併症から守り、生まれてくる赤ちゃんを先天性風疹症候群から守るためにも、これまで風疹の予防接種を受けたことがない場合は、成人男性でも早く予防接種をうけるようにします。



現在妊娠がわかったばかりの妊婦ですが、これまで風疹の予防接種を受けたことがありません。家族の者で予防接種を受けていない場合は予防接種を受けるべきでしょうか？



妊婦が風疹の予防接種を受けることはできません。家族の方は出来るだけ早く接種を受けるようにしてください。予防接種を受けた者から妊婦に風疹ワクチンのウイルスがうつる心配はまずないと言ってよいでしょう。